

# 東三河郷開拓団とは

参考：愛知県史

愛知県開拓史

愚かなる者の旅路(瀧川辰雄)

愛知県でも満州移住を推進するため、各市町村での啓蒙活動は盛んになり、国策としての浸透していきました。映画会、講演会が各地で催され、特に義勇軍訓練生の現地報告会は青少年の共感を与えたとされています。

東三河郷開拓団は、1940年(昭15)に東三河地方を送出母体として愛知県が送り出した唯一の開拓団です。当時、愛知県内には軍事工場や軍用施設が多く、全国的には送出が少ない県でしたが、国策にのっとり1939年(昭14)に満州に東三河村をつくる計画を発表しました。移住戸数は300戸、八名郡は最も多く、130戸が予定されました。

1939年1月、山吉田村の経済厚生委員会が「山吉田村の再建：満州山吉田村建設の為に」という文書を作成しています。そこには3年間で100戸、600人を送出す計画が記されています。計画作手前に日中戦争が激化し、応召軍人が続出したため、計画は断念されましたが、当時の農村の実態がうかがわれる資料です。

県の募集に応じた東三河の農山村地区を中心にした先遣隊32名は1940年2月、龍江省甘南県大平山村三合屯に第9次東三河郷開拓団として入植しました。同年には、家族召致も始まり、後続隊と共に村づくりに血と汗の苦闘を続けることとなります。開拓民は未開墾地の開発と北辺防備を目的としたため、入植地は北満地方に片寄っていました。開拓民の多くは、農家の二男、三男でした。

東三河郷開拓団では、出身地別に集落がつくられ、

## 「満州分村計画の実行について」より抜粋 旧山吉田村役場文書 昭和14年(1939)

- 村の全財産では全村民を幸せにする力がなく、  
“要するに人間が多すぎるのであります”
- 山吉田村の足りない所は満州によって補い、大山吉田村を建設する、これが満州移民であります。
- 皆さん、手を握り合って行きましょう！  
満州の理想郷へ 王道楽土建設へ
- 残った人たちの資源も多くなり、移住した人の資源も多くなり、経済更正でもあり、国策でもあり一石三鳥の策となるではありませんか。

満州移民係 9名の署名あり (愛知県史)



東三河郷開拓団の紹介写真 1942年撮影

その名も田口，海老，本郷など母村の名称が好んで用いられました。

営農施設，学校，神社，墓地，診療所等も造成されました。正確な人数は分かりませんが，終戦時には団員は530名あまりとなり，活気にみちた第2の故郷としての基盤が築かれていきました。

しかし，その土地は中国人から接收したものです。団員の瀧川辰雄さんの記録です。

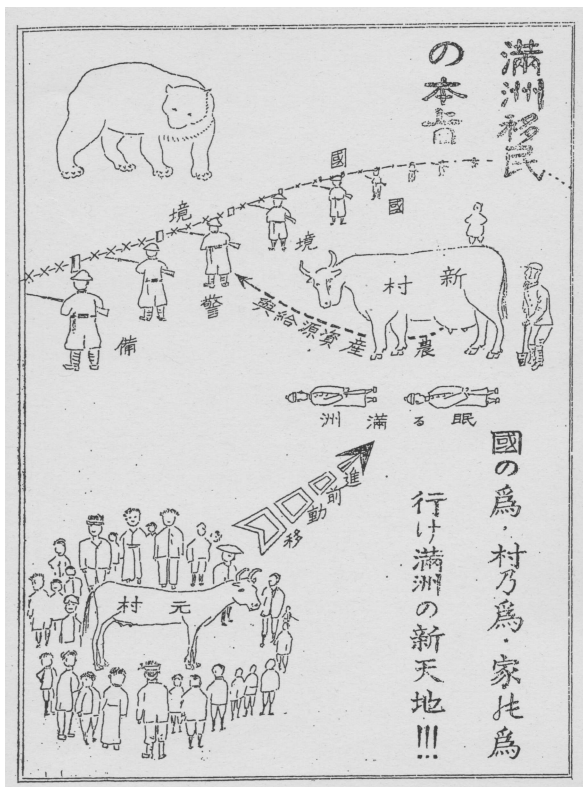
「中国人が長年耕作してきた土地を取り上げるなど，人道上も道義的にも許すことのできない大悪罪である。」反面，「全財産を処分して渡満してきた団員が帰る場所はなく，どうしようもなかった。」と苦悩されています。

終戦後，逃避行，引き揚げの苦難が始まります。東三河郷の人たちは無抵抗主義をつらぬき，すべてのものを中国人に提供し，無一物になります。一人でも多く日本に帰ることをめざしたのです。多くの方が犠牲になりましたが，家族での自決や殺害の悲劇はありませんでした。

### 旧市町村別戸数

鳳来町	海老町	24
	山吉田村	6
	七郷村	2
新城市	八名村	3
	千郷村	1
	舟着村	1
	東郷村	1
	作手村	7
	東栄町	32
	設楽町	21
	津具村	10
	稲武村	10
	豊橋市	6
	田原町	4
	その他	18
	計	146

旧山吉田村役場文書 昭和十四年山吉田村財産区所蔵



### 東三河郷開拓団人員構成表

団員戸数	146戸
総人数	549人
応召者	99人
" 死亡	(22)
" 生還	(77)
死亡者	168人
終戦前	(21)
終戦後	(147)
生還引揚者	252人
行方不明者	2人
残留者	28人

「愚かなる者の旅路」 瀧川辰雄  
総理府嘆願書より 昭46年調